

[4] 退職記念事業

米田 稔先生 京都大学御退職

京都大学の定めにより、米田稔先生は、令和6年3月末日をもって定年退職されました。先生のご退職にあたり、京都大学吉田キャンパスにて最終講義を開催し、これまでの先生のご研究や今後の展望についてご講義いただきました。当日は、研究室の卒業生の皆様を中心に80名以上の関係者各位にご出席を賜りました。

最終講義

題目：「環境リスク学研究40年を振り返る」

日時：2024年4月6日(土) 14:00～16:00

場所：吉田キャンパス 総合研究3号館共通155講義室

また、同日17時45分から、聖護院御殿荘にて、研究室の同窓会を開催しました。終始和やかな雰囲気の中で、会を開催することができました。



米田稔先生におかれましては、京都大学での永年の御功績と御尽力に感謝と敬意を表しますとともに、益々の御活躍と御健勝を心からお祈りします。今後とも末永く御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(環境リスク工学分野)

**牛島 省先生 京都大学御退職**

京都大学の定めにより、牛島省先生は、令和6年3月末日をもって定年退職されました。ご退職にあたり、京都大学 学術情報メディアセンターおよび京都大学情報環境機構の教職員と関係各位により、吉田キャンパスにてリモート配信も併用し、ご退職の会が開催されました。先生から京都大学のスーパーコンピューティングによる計算科学研究の歩みと今後の展望についてご挨拶頂きました。また、卒業生が作成したボイスキャラクターによる研究紹介動画の披露などが行われ、楽しいひとときとなりました。

牛島省先生におかれましては、京都大学での永年のご功績とご尽力に感謝と敬意を表しますとともに、益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

(計算工学講座)



角 哲也先生 京都大学御退職

角哲也先生は京都大学の早期退職制度を利用し、令和6年3月末日をもって退職されました。平成10年に建設省土木研究所から赴任され、通算25年、吉田・桂・宇治の3つのキャンパスを経験され、土木工学専攻、社会基盤工学専攻、経営管理大学院、最後は防災研究所で15年間勤められました。

京都大学における一般の教職の業務からは離れましたが、同年4月より防災研究所水資源環境研究センターにおいて産学共同研究部門ダム再生・流砂環境再生技術研究領域を起ち上げ、その特定教授に就任されました。5月30日には、その設立を記念したキックオフシンポジウムが宇治キャンパスきはだホールで盛大に開催されました。

(参照：<https://damupgrading.dpri.kyoto-u.ac.jp/>)

同領域のキャッチフレーズは、「流域治水およびカーボンニュートラルに資するダム再生技術の研究領域、～ダムを、「賢く」、「増やして」、「永く」使うために～」です。全国の多目的ダムや電力ダムなどを対象に、気候変動下で激甚化する豪雨災害に備えたダムの洪水調節機能の強化や、国産の再生可能エネルギーとして改めて評価が高まっている水力発電の拡大に向けた「ダム再生技術」を開発することが目標です。

具体的には、ダムを「賢く」使うために、アンサンブル降雨予測を活用したダムの運用高度化技術（治水と利水のWIN-WIN）や、「増やして」使うために、ダムの嵩上げや



放流設備の増設、ダム間のネットワーク化技術の開発を目指しています。また、ダムを「永く」使うために、貯水池に堆積する土砂を、河川や海岸環境の改善のためにダムの下流域に供給する「流砂環境再生技術」の開発も進めておられます。このコンセプトは、昨年京都大学学術出版会から発刊された同名の書籍の実践的取組となっています。

角先生は建設省の御出身であり、京都大学から国家公務員、特に国土交通省へ就職する学生向けの国家公務員ゼミの世話役を長らく務められました。御退職にあたり勝見武先生に担当を引き継がれました。なお、退職記念パーティーについては、当初の定年のタイミング、あるいは当研究領域終了時のタイミングで行うことを予定しています。

(自然・社会環境防災計画学分野)

